

外国語活動・外国語の指導を 4技能の観点で見直す

第5回 「音」と「文字」を結びつける

粕谷恭子（東京学芸大学）

0. 4技能をなだらかに育てるための言語経験

4技能のとらえ方 (第1回)

「意味」と「音」の一致 (第2回)

大量の音声インプット (第3回)

口慣らし (後練) (第4回)

「音声」と「文字」の一致 (第5回)

第5回 「音」と「文字」を結びつける

1. アルファベット遊び

* 外国語活動において

- ・ 1 単元では賄いきれないのではないかと
- ・ 帯活動の活用を
- ・ 音声指導を兼ねている気持ちで、文字の名前を
- ・ 文字が書かれるところを見せるのも大切

* 活動の紹介

第5回 「音」と「文字」を結びつける

番外編

- * 「読むこと」、「書くこと」の目標（の低さ）を十分理解しましょう。
- * 「聞くこと」、「話すこと」が小学校の中心！！
- * 私たちが経験してきた「砂上の楼閣」を再生産しない

第5回 「音」と「文字」を結びつける

2. 文字のインプットを与える

* 音が文字になるところを目撃させる

- ・ 空から文字が降ってこないように
- ・ 小学校は「文字を見て音を出す」指導は行わない
- ・ 文字があっても音を作る助けにならない
- ・ ローマ字読みするしかない状況

第5回 「音」と「文字」を結びつける

2. 文字のインプットを与える

* 耳から入る情報と目から入る情報を一致させる経験

- ・ 音は目に見えないが、見えるようにすると
こういう姿なのか！！
- ・ 同じ表現を並べてみることで、語順が目に見える

第5回 「音」と「文字」を結びつける

2. 文字のインプットを与える

* 口から出る情報と目から入る情報を一致させる経験

- ・ 読めているわけではない
- ・ 音声と文字の神経衰弱ゲーム段階 音読の手前の手前
- ・ 文字を見ながらだと音が崩れるなら、文字を入れるのが時期尚早だった可能性 ヒトこま戻って音を入れなおす

第5回 「音」と「文字」を結びつける

3. えんぴつを使った活動へ

* 「書く」という営み

- ・ 意味がわかり、音がわかっていることを書く
- ・ 模様の描き写しは「書くこと」ではない
- ・ なぞる

書き写す

空所補充 → 空所を増やす

第5回 「音」と「文字」を結びつける

3. えんぴつを使った活動へ


* 教師の働きかけ

- ・ピリオド忘れ → 「惜しい！」
単語と単語の間が広い・狭い → 「お手本はいくつ塊がある？
4線の位置がずれる → 「（お手本を部分的に隠しながら）
ここにはなにもないよ。あなたのはどう？」
- ・書き終わった子どもには「なんてなぞったの？」と話しかけ、
きちんと音声化できるか確認する。
- ・気長な指導 あたたかいまなざし

第5回 「音」と「文字」を結びつける

4. 授業の場面で

* 授業場面をご覧ください



5回のご視聴ありがとうございました。

子どもと英語の良い出会いに、先生方の負担・不安軽減に少しでも役に立てたら、うれしいことです。

粕谷恭子